

民間人殺戮の戦争

イスラム国兵士わずか三万数千人に対して米欧諸国は一日平均十億円の空爆を行っている。十日で百億円。空爆は自国の兵の「人命尊重」のための戦争のやり方。だから誰も反対しない。しかし空爆は街を破壊し敵国民間人を多数殺傷する。地上戦でなければ敵を殲滅できないと解っているが…。

嘘ついでやがらと呟き続けた

昭和二年に生まれ、日米戦争開始の昭和十六年に十四歳だった小説家吉村昭がこう書いている。「過ぎ去った戦争について、多くの著名な人々が、口々に公けの場や私生活で述べている。『戦争は軍部がひき起こした』：私はそれらの著者の卑劣な言葉と観じた。嘘ついでやがら——私は、戦後最近に至るまで、胸の中でひそかにそんな言葉を吐き捨てるようにつぶやきつづけてきたのだ。：戦時中の私たちは、戦争を罪悪とは思わなかったし、むしろ、戦争を喜々と見物していた記憶しかない」（『戦艦武蔵ノート』）

昭和二年に生まれ、日米戦争開始の昭和十六年に十四歳だった小説家吉村昭がこう書いている。「過ぎ去った戦争について、多くの著名な人々が、口々に公けの場や私生活で述べている。『戦争は軍部がひき起こした』：私はそれらの著者の卑劣な言葉と観じた。嘘ついでやがら——私は、戦後最近に至るまで、胸の中でひそかにそんな言葉を吐き捨てるようにつぶやきつづけてきたのだ。：戦時中の私たちは、戦争を罪悪とは思わなかったし、むしろ、戦争を喜々と見物していた記憶しかない」（『戦艦武蔵ノート』）

昭和二年に生まれ、日米戦争開始の昭和十六年に十四歳だった小説家吉村昭がこう書いている。「過ぎ去った戦争について、多くの著名な人々が、口々に公けの場や私生活で述べている。『戦争は軍部がひき起こした』：私はそれらの著者の卑劣な言葉と観じた。嘘ついでやがら——私は、戦後最近に至るまで、胸の中でひそかにそんな言葉を吐き捨てるようにつぶやきつづけてきたのだ。：戦時中の私たちは、戦争を罪悪とは思わなかったし、むしろ、戦争を喜々と見物していた記憶しかない」（『戦艦武蔵ノート』）

昭和二年に生まれ、日米戦争開始の昭和十六年に十四歳だった小説家吉村昭がこう書いている。「過ぎ去った戦争について、多くの著名な人々が、口々に公けの場や私生活で述べている。『戦争は軍部がひき起こした』：私はそれらの著者の卑劣な言葉と観じた。嘘ついでやがら——私は、戦後最近に至るまで、胸の中でひそかにそんな言葉を吐き捨てるようにつぶやきつづけてきたのだ。：戦時中の私たちは、戦争を罪悪とは思わなかったし、むしろ、戦争を喜々と見物していた記憶しかない」（『戦艦武蔵ノート』）

昭和二年に生まれ、日米戦争開始の昭和十六年に十四歳だった小説家吉村昭がこう書いている。「過ぎ去った戦争について、多くの著名な人々が、口々に公けの場や私生活で述べている。『戦争は軍部がひき起こした』：私はそれらの著者の卑劣な言葉と観じた。嘘ついでやがら——私は、戦後最近に至るまで、胸の中でひそかにそんな言葉を吐き捨てるようにつぶやきつづけてきたのだ。：戦時中の私たちは、戦争を罪悪とは思わなかったし、むしろ、戦争を喜々と見物していた記憶しかない」（『戦艦武蔵ノート』）

昭和二年に生まれ、日米戦争開始の昭和十六年に十四歳だった小説家吉村昭がこう書いている。「過ぎ去った戦争について、多くの著名な人々が、口々に公けの場や私生活で述べている。『戦争は軍部がひき起こした』：私はそれらの著者の卑劣な言葉と観じた。嘘ついでやがら——私は、戦後最近に至るまで、胸の中でひそかにそんな言葉を吐き捨てるようにつぶやきつづけてきたのだ。：戦時中の私たちは、戦争を罪悪とは思わなかったし、むしろ、戦争を喜々と見物していた記憶しかない」（『戦艦武蔵ノート』）

昭和二年に生まれ、日米戦争開始の昭和十六年に十四歳だった小説家吉村昭がこう書いている。「過ぎ去った戦争について、多くの著名な人々が、口々に公けの場や私生活で述べている。『戦争は軍部がひき起こした』：私はそれらの著者の卑劣な言葉と観じた。嘘ついでやがら——私は、戦後最近に至るまで、胸の中でひそかにそんな言葉を吐き捨てるようにつぶやきつづけてきたのだ。：戦時中の私たちは、戦争を罪悪とは思わなかったし、むしろ、戦争を喜々と見物していた記憶しかない」（『戦艦武蔵ノート』）

昭和二年に生まれ、日米戦争開始の昭和十六年に十四歳だった小説家吉村昭がこう書いている。「過ぎ去った戦争について、多くの著名な人々が、口々に公けの場や私生活で述べている。『戦争は軍部がひき起こした』：私はそれらの著者の卑劣な言葉と観じた。嘘ついでやがら——私は、戦後最近に至るまで、胸の中でひそかにそんな言葉を吐き捨てるようにつぶやきつづけてきたのだ。：戦時中の私たちは、戦争を罪悪とは思わなかったし、むしろ、戦争を喜々と見物していた記憶しかない」（『戦艦武蔵ノート』）

昭和二年に生まれ、日米戦争開始の昭和十六年に十四歳だった小説家吉村昭がこう書いている。「過ぎ去った戦争について、多くの著名な人々が、口々に公けの場や私生活で述べている。『戦争は軍部がひき起こした』：私はそれらの著者の卑劣な言葉と観じた。嘘ついでやがら——私は、戦後最近に至るまで、胸の中でひそかにそんな言葉を吐き捨てるようにつぶやきつづけてきたのだ。：戦時中の私たちは、戦争を罪悪とは思わなかったし、むしろ、戦争を喜々と見物していた記憶しかない」（『戦艦武蔵ノート』）

経宮管理講座 310 染谷和巳

戦争開始の引き金になった（各地にあった租界は大東亜戦争勃発で中国が連合軍になったので各国がそれぞれ返還して、発生以来九十五年間の幕を閉じた）。

中国軍は民間人を殺したが、日軍は戦争のルールを守った。国民党の蒋介石はイギリス人やアメリカ人のジャーナリストに大金を渡して「南京大虐殺」の記事を書かせ本を出版させた。

中国の執拗な非難と宣伝に負け、日本政府は「南京大虐殺があった可能性を否定できない」という見解を発表している。

南京大虐殺はなかった。南京に入城した日本軍。寝込みを襲われてはたまらないので、「便衣隊員狩り」に注力した。抵抗して誤って殺された民間人がいたかもしれない。それは虐殺ではない。

日本軍は軍規を厳しく保たれてきた。日本軍の規律遵守は世界中が認め賞賛する軍隊の鑑だった。日本軍にも新兵に度胸をつけさせるため、中国兵捕虜を銃剣で突き殺させた事実がある。これを命じた上官は軍法会議で処罰された。軍が許してやらせていることではない。戦争という異常な環境

戦争は科学の進歩を促す。銃砲のみならず、爆弾、船舶、飛行機、通信機器の分野は革命的に進歩する。武器を作る機械を作る機械メーカーの技術と練度も向上する。土木建築、自動車、食品、薬品などのあらゆる分野が大変化大成長する。

勝つために国をあげて惜しみなく人物金を投入するからである。

上する。土木建築、自動車、食品、薬品などのあらゆる分野が大変化大成長する。

勝つために国をあげて惜しみなく人物金を投入するからである。

現在の私たちの快適な生活の大きい部分は戦争による科学の進歩に負っている。だがそれ以上に進歩の弊害は甚大である。戦争が軍隊同士の戦いでなくなつた。軍隊が民間人を殺傷するようになった。その端的な例が東京大空襲と原爆投下。

日本人を人間と思っていないカース・ルメイ少将が一九四五（昭和二十年）一月、爆撃集団司令官に任命された。ルメイは爆撃機B29と焼夷弾により、動物を狩るように、まず大きい丸い輪に爆弾を投下、火の輪に囲まれた人々は中へ中へと逃げた。そこへ再び爆弾投下。日本民間人が十万人死んだ。

原爆投下を命じたのはトルーマン大統領。トルーマンは狂信的な人種差別団体KKKの元会員で、やはり日本人を人間だと思っていなかった。広島と長崎の原爆でやはり十万人以上の民間人が殺された。

飛行機と爆弾そして近年開発されたミサイルなど、武器の性能向上が民間人殺傷につながっている。戦争が人と人の対決から「空爆」という大まかな攻撃に変わってか

ら民間人の被害が拡大した。「空爆」の走りはドイツによるロンドンなどイギリスの各都市への爆撃である。一九四〇（昭和十五年）九月から翌年五月までの空襲で民間人五万人近くが死んだ。

ナチスドイツのような人種差別はなかったが、イギリス軍の戦意を喪失させるため、その故郷を爆撃したのだという。

かつて爆撃は飛行場や軍需工場など関連施設を狙い撃ちした。真珠湾を襲った日本海軍はハワイの町や住宅は攻撃しなかった。武士の末裔を任ずる日本軍人は、日中戦争でも日本の飛行機は民間人の街や住宅は爆撃しなかった。戦闘機も爆撃機も軍事施設以外は見事に避けた。そのため便衣情など解さないし、情など寸毫も持たない個人主義の民族、欧米や中国、中近東の人々が民間人の殺戮を戦争の常道にした。

イスラム国の兵士は村や町に流れ込んで戦う。正義の空爆は民間人ごと攻撃する。民衆は逃げ惑うが安心できる避難地はない。プロ同士の戦いを喜々として見るといったスポーツ観戦の戦争はなくなったのである。

目下、日本を攻撃する可能性のある敵国は中国、ロシア、北朝鮮、韓国。敵国が空爆すれば街は焼かれ家族は殺される。アメリカ軍が守ってくれると言うが、条約などは自国の利にならないれば容易に反古にしてしまうことは歴史が証明している。基地の米駐留軍に日本がどれだけ金を使ったかと抗議しても「あ、そう、それはそれ」で済まされてしまう。

地方に逃げても山奥に逃げても空爆は続く。妻を子を家族を殺された人は悲嘆に暮れる。未来を失

つた不幸な民間人。：国会の周りで原発反対、集団的自衛権反対のデモをしている家族を殺された人々はどうするか。「自衛隊は何をしているか。爆撃機とミサイルを撃ち落とせ！我々の安全を守るのが自衛隊の務めだ。緊急事態だ、戦え！」リベラルなマスコミも調子を合わせる。敗戦後フルリと転向して「軍が悪い、戦争反対」と主張した知識人と同じ。吉村少年は国会デモを思い出してまた「嘘ついでやがら」とつぶやくだろう。

日本嫌いの平和主義知識人よ

目下、日本を攻撃する可能性のある敵国は中国、ロシア、北朝鮮、韓国。敵国が空爆すれば街は焼かれ家族は殺される。アメリカ軍が守ってくれると言うが、条約などは自国の利にならないれば容易に反古にしてしまうことは歴史が証明している。基地の米駐留軍に日本がどれだけ金を使ったかと抗議しても「あ、そう、それはそれ」で済まされてしまう。

地方に逃げても山奥に逃げても空爆は続く。妻を子を家族を殺された人は悲嘆に暮れる。未来を失

空爆が戦争のルールを変えた

戦争は科学の進歩を促す。銃砲のみならず、爆弾、船舶、飛行機、通信機器の分野は革命的に進歩する。武器を作る機械を作る機械メーカーの技術と練度も向上する。土木建築、自動車、食品、薬品などのあらゆる分野が大変化大成長する。

戦争は科学の進歩を促す。銃砲のみならず、爆弾、船舶、飛行機、通信機器の分野は革命的に進歩する。武器を作る機械を作る機械メーカーの技術と練度も向上する。土木建築、自動車、食品、薬品などのあらゆる分野が大変化大成長する。